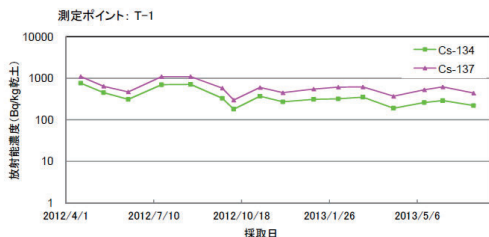
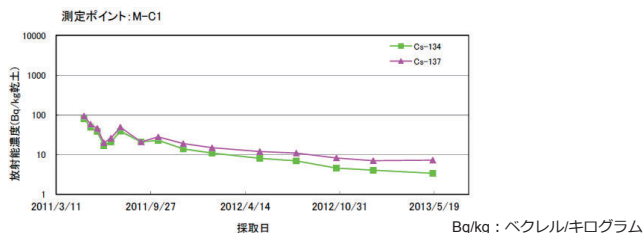


福島県沿岸の海底土の放射能濃度の推移



福島県沖合の海底土の放射能濃度の推移



震災後から平成25年7月31日まで

原子力規制庁ホームページ放射線モニタリング情報から作成

セシウムが付着した土壌は川を經由して沿岸まで運ばれます。

事故から1年経過した時点では、土壌の放射性物質の濃度も下がりました。

陸地近くの沿岸の海底土を乾燥させて測定した結果、セシウム134、セシウム137は1,000ベクレル/kgありましたが、事故から2年後には、セシウム137は500ベクレル/kgと半減し、セシウム134は200ベクレル/kgと5分の1になりました。

陸地から40km沖合(測定ポイントM-C1)の海底土の放射能濃度は、事故当時100ベクレル/kgに上昇しましたが、1年後には10ベクレル/kgまで下がりました。

本資料への収録日: 2014年3月31日

本情報は事故当日(2011年)～2013年の情報です。

関連 Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA5 海のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか